





ニュートン・サーカスの屋台村

訪れたのは1989年8月で、タイ旅行の際の“寄り道”でした。また1999年にもマダガスカルの帰りに立ち寄り、旅仲間とランチは飲茶、夜は屋台でいろんなシンガポールの味を楽しみました。オーチャード通りの北にあるニュートン・サーカスは、100軒以上もの屋台が集まった最大規模のフォーカス・センターです。ここでは1人よりも仲間と一緒にワイワイと。

シンガポールは緑あふれるクリーンなガーデン・シティ。ゴミを捨てたり、痰を吐いたり、禁煙区域でタバコを喫ったりすると旅行者でも罰金。そんなシンガポールの見どころといえば、多民族国家であるためバラエティーに富んでいるところ。イギリスの統治時代の優雅な建物が多く残っているエリザベス・ウォーク界限、竿をつき出して洗濯物がはたたく活気に満ちたチャイナタウン、インド人街を歩けばサリー姿の女性やターバンを巻いた男性に、青空に映える黄金のミナレットが目をはひくアラブ人街では目の鋭いヒゲづらの男たちに出会います。

ビルが林立する市内はもちろん晴れた日には遠くインドネシアやマレーシアが眺められるマウントフェーバーの丘やこの国一番のレジャーアイランドであるセントサ島、そしてシンガポールとマレーシア間の海峡をわたる水の架橋ジョホール水道を横目に見ながら国境線を橋で越

えてマレーシアの国境の町ジョホール・バルの観光などもお勧めです。狭い国だから限られた滞在日数でいっぱい楽しめます。

シンガポールといえば上半身がライオンで下半身が魚という伝説の動物マーライオンがシンボリック的存在。期待を抱いてマーライオン見に行くと、マーライオン公園が想いのほか小さいのに、超ビックリ！



マーライオン公園



ペナン島のビーチ



ヘビがすむ儒教寺院

“リゾート派”にはマレーシアのペナン島かインドネシアのバリ島でビーチ・リゾートを。

1991年8月に訪れたペナンは、“東洋の真珠”と称賛されるほど美しい島。クアラルンプールからは空路1時間足らずで到着します。島の北側に広がる東洋屈指のリゾート地パトゥー・フェリングには白砂の美しいビーチに沿って一流リゾート・ホテルが並び、外国人観光客でにぎわっています。

またこの島には観光スポットも沢山あります。北東部の港を中心に広がる州都ジョージタウンは、イギリス植民地時代から商業都市として栄え、昔の面影を残すコロニアル様式の建物が建ち並ぶエキゾチックな街。1786年にペナン島を発見したフランシス・ライトが上陸した地点に築かれた要塞コーン・ウォーリス砦には今でも当時の大砲が海に向けられたまま。島の中央東寄りに連なる高さ800mほどの丘ペナン・ヒルから望むペナンのパノラマは美しく、ことに日

没どきの異国情緒豊かなジョージタウンの眺めは素晴らしいです。ここでは夜景だけでなく、野菜や魚介類をスープで煮込んだマレー風寄せ鍋のスチームボードディナーに舌鼓を。

ペナン・ヒルの北側には約50匹のサルが放し飼いにされていてモンキーガーデンと呼ばれる自然植物園があり、南側に回るとアエル・イタム丘にマレーシアで最大の仏教寺院極楽寺があります。市内の北西のはずれには世界で4番目に大きい(全長33m)涅槃仏が横たわっているタイの仏教寺院寝釈迦仏寺院もあります。これらは1日もあれば十分に見て回れるので、ビーチ・ライフだけでなく観光も楽しめます。

空港の少し北にはヘビがすむという世界で唯一の儒教寺院があります。1850年頃に建てられた寺院にはいつのころからか約60匹の毒ヘビがすみつき、祭壇前にもヘビがウジャウジャ。私は頭や肩にワグラズ・ピット・パイヤーという薄緑色のヘビを10匹くらいにせられ、超キモ〜！



バリ島のビーチ



田園風景の広がる芸術の村ウブド

1994年8月に訪れた神々も微笑む森と踊りの島バリは、アジア屈指のヒーリングリゾート。毎日島のどこかで祭りや儀式が行われているといわれるだけあって、島全体に常に神々しい雰囲気漂っており、現実の世界を超越したかのような神秘的魅力があふれています。そして、もうひとつの魅力が南海の碧い海と蒼い空。サーフィン、シュノーケリングやスクーバダイビング、パラセーリングをはじめ、バリで楽しむ

るマリンスポーツのメニューは豊富。もちろん泳いだり、白い砂浜に寝そべて日光浴するだけでも常夏のバカンス気分は満喫できます。

ビーチから一歩奥地へ入ると、神々への供物のせいなのか、人々の篤い信仰心の現れなのか、周囲の景色は一変して厳かな空気に包まれます。バリ島中部のウブドは広々とした田園風景の広がる静かな村。ここは芸術家村として名高く、プリ・ルキサンやネカなどの美術館のほか、た

くさんのギャラリーが集まっており、独特の画風をもったバリ絵画が並んでいます。さらにバリ島北部まで足をのばせば、美しいバトゥール湖と活火山を見渡せることで有名な景勝地キタマーニ高原なども。

バリ島では食べることも楽しみのひとつ。ここでは辛口のパダン料理や甘口のジャワ料理のほかにインドネシアでは珍しくブタを使うバリ料理など、さまざまなインドネシア料理が味わえます。私のお勧めディナーは、多少値は張るもののビーチサイドにあるバリ風に凝ったインテリアのレストランで食べるフレッシュ・シーフードです。

ガムランの音とエキゾチックなバリ舞踊の数々、バリダンスはバリのナイトライフのひとつの顔となっています。バリ舞踊のなかでも50～100人程度で歌い舞い踊るケチャックダンスは、最もポピュラーな踊り。そこでケチャックダンスについて解説します。昔、ケチャックとは催眠状態にある娘たちが踊るサンヤンダンス

に伴ったコーラスのことで、サンヤンダンスは催眠状態にある娘たちを通じて祖先の願いを聞くことを目的としていました。現在のケチャックダンスは、ラーマヤーナ物語を軸にして踊られています。物語の概要は『ラーマはアヨディア王国の王子で、王位継承者でした。しかし、父王が継母と継母の生んだ子供を王にすると約束していたことを知り、妻のシタと弟のラクサマナを従い王宮を去り、ダンダカの森に入りました。その森で1匹の黄金のシカに出会いました。シタがそれを生け捕りにして欲しいと願ったので、ラーマに続いてラクサマナが、このシカを追いました。無防備で1人取り残されたシタは、アレンカ王国の悪の大王ワラナに捕らわれ、連れ去られてしまいました。猿王スグリワを司令官に猿軍に導かれたラーマはアレンカ王国を攻撃し、結局ラーマ側の勝利でこの戦いは終わりました。』です。ケチャックダンスは圧倒的な迫力が体感できます。でも5幕からなる物語は、超フメ～！



華麗なバリ舞踏の踊り子

“遺跡派”の観光といえばジャワ島にある神秘と謎に包まれたボロブドール遺跡。日本からインドネシアへ旅するとき、ゲートシティはバリ島のデンパサールとジャワ島のジャカルタの2つなので、日本への帰りにボロブドールへ立ち寄りしました。ボロブドールはジョグジャカルタの北西約42kmに位置する世界最大級の仏教遺跡。土台の底辺が一辺124mの正方形、高さは42mもある巨大な安山岩の遺跡は、いったい卒塔婆(聖地であることを示す仏塔)なのか、曼陀羅(尊仏の悟りの世界を描いたもの)なのか、あるいは霊廟なのだろうか。8世紀後半から9

世紀前半にかけて、シャイレンドラ王朝時代に建立されたと考えられていますが、いつ、誰が、何のために造ったものなのか、さまざまな推測はあるものの、事実は依然として謎のまま。回廊壇を5段上るとストゥーパが並ぶ円壇テラスに出ます。その第一段目の東側中央にあるひとつの仏像が幸運を招くものだといわれており、ストゥーパの格子の隙間から腕を伸ばして、男性は中の仏像の手の指(右手薬指)を、女性は足の裏をなでると願い事がかなうといわれています。これが簡単そうに見えて意外と難しく、なかなか仏像に手が届きません。



神秘と謎に包まれた巨大な仏教遺跡ボロブドールの全景



テラスに並ぶストゥーパと石仏

午前中にボロブドール、そして午後からはボロブドール周辺のチャンディ・ムンドゥ、チャンディ・パウオン、チャンディ・ヌガウェンへと。ボロブドールに関する諸説のなかに、この地区一帯を寺院、あるいは伽藍とみなす考え方があります。というのは、ボロブドールのすぐ近くにほとんど時を同じくして、ムンドゥとパウオンという2つのチャンディ(寺院)が建造されているからです。ちなみに、これらの寺院とボロブドールはほぼ一直線上に並ぶように位置しています。

ジョグジャカルタから東へ約17kmのプランバン平原にはジャワ有数のヒンズー教と仏教遺跡群が点在しています。遺跡群は、仏教を信奉したシャイレンドラ王朝からヒンズー教王国のマタラム王朝へと政権交代する時代(8~10世紀頃)にかけて建てられたといわれています。ヒンズー教と仏教の寺院がほぼ同時代に隣接して立つというのは不可思議なことですが、構造や彫刻は相互に影響しており、インドネシアならではの珍しい遺跡といえます。世界遺産のプランバン寺院はヒンズー教寺院のなかでも最大規模を誇り、シヴァ、ヴィシュヌ、ブラフマの神々がトゥリムルティ(三位一体)を表しています。繊細でミステリアスなどこか女性的な印象のプランバン寺院は、男性的なボロブドールとは好対照です。

ジョグジャカルタでは、18世紀頃に花開いたイスラム王国ソロ王家のプリンスハウスだった「ルマ・スレマン」で、宮廷の雰囲気味わいながら王家のレシピを使ったコース料理を賞味。

メノレ連峰の麓に広がる緑豊かな平原に現れた大遺跡ボロブドールを目の前にすると、何百年という長い歴史をひしひしと感じます。しかし、この遺跡は1985年にイスラム教徒数名の犯行とされる爆破事故によってレプリカの部分があるのに、超ガッカリ！

余談ですが、私にとってはスマトラ島も思い出深いところ。スマトラ島はインドネシア最北端にある日本の1.3倍の面積をもつ大きな島で、マラッカ海峡を隔ててアジア大陸に近く、インドネシアで最初にイスラム教が入った地。スマトラ沖地震の3週間前(2004年12月)にスマトラ島最大の都市メダンで開催された第8回アジア臨床病理学会議(ASCPaLM)に参加し、大津波が襲った海岸も観光しました。悪運が、超ツヨ～！

WASPaLMの総会に参加する際には、私のように“寄り道”観光を楽しまれては如何ですか。この度はクアラルンプールから2泊3日の“寄り道”先を厳選しましたので参考になれば幸いです。